

一緒に始めませんか、あなたの挑戦も応援します！ ~共に創る これからのふくろい~

発行日：令和4年8月2日
発行者：袋井市企画政策課

学校を起点とした共創のまちづくり実証 花をフックに学びと企業PR



学校・企業、地域との新たな繋がりと対話の積み重ねが互いに実現したいことを叶え合う仲間となる

2022.5.28@袋井宿場公園「ふくろい宿de花マルシェ」

各々が叶えたいこと

- (学校関係者) 「販売体験」や「地域の人たちとの交わり」など教育的価値を高める体験や機会をつくりたい
- (地元の企業) 就職フェアなどで認知度が低いことを痛感。地元企業として自社の認知度を高めたい
- (市緑化担当) 緑化の推進など、他分野・多世代の人たちへの啓発と新たな仲間づくりをしたい

花と触れ合い、花に親しむ 花マルシェ

5月28日、袋井宿場公園で「ふくろい宿de花マルシェ」が開催され、花が好きな方をはじめとする多くの市民で賑わいました。

花の魅力や花のある暮らしを感じてもらおうと、花咲くふくろい推進協議会(主催)と一般社団法人どまんなかセンター(企画・運営)が実施したもので、花や多肉植物の展示販売のほか、自然素材のスイーツや軽食の販売、花に関するワークショップなどを開催。花をテーマとした共創の取組の一環として、高砂フードプロダクツ(株)と浅羽中学校の園芸部も参加し、来場者は花との触れ合いを楽しみました。



花と緑と様々なブースでにぎわう会場(袋井宿場公園)



育てた花苗で募金を募る浅中園芸部の生徒たち



市民団体による歌声や演奏の披露



①～③ 笠原花工場での体験学習や専門家による指導

浅羽中(園芸部)が花マルシェに出店することをきっかけに、趣旨に賛同した仲間らの“互惠”の広がり

①部活動の新たな活動場所の確保

校舎建て替えのため、校内の花壇が使えない状況下、「笠原花工場」が園芸部の生徒を受入れ
地域の繋がりや実践的な学びの場として、花咲くふくろい推進協議会が「花マルシェ」への出店を受入れ

②学校だけではできない活動や学びの充実

花工場を部活動のフィールドに、マルシェで当日販売する「花苗の鉢上げ」や「寄せ植え体験」が実現
⇒花工場の活動を知ってもらう機会にもなった。(花工場関係者)

自分たちが寄せ植えをした花を使って花マルシェの会場を装飾し、花苗の販売体験なども実践
⇒異なる世代がイベントに参加することが、イベントの集客や認知度向上にも繋がる(イベント主催者)

③花の専門家などによる活動支援

花工場や花の会など花の専門家が、当日販売する花苗の種類や特徴、育て方の留意点などを直接指導
⇒孫世代との交流は、新しい刺激を受けたり、自分たちの活動の励みになった。(花の会関係者)

④地元企業との連携による活動支援

高砂フードプロダクツ(株)との連携により、学校の花壇や部活動に使用する培養土の無償提供が実現
培養土がどのように作られるのかなど、社員による環境に関する学習機会も創出

⇒生徒や先生と直接接する機会ができたことで企業の認知度向上に繋がった。(高砂フード)

⑤行政との繋がり・連携強化

市シティプロモーション担当(JTB出向者)が「接客への心構え」などについて直接指導

広報ふくろいなどによる周知 ⇒ 緑化推進や教育の質の向上など、他分野の施策を同時展開できた



③～⑤ 専門家による部活動の指導・助言